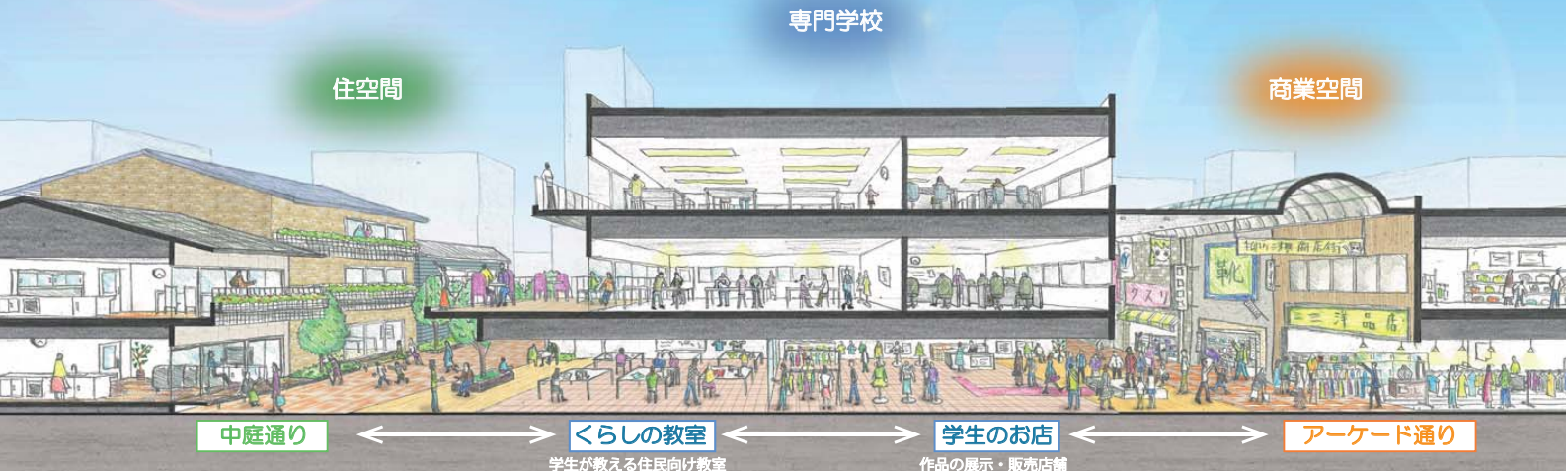


# 柳ヶ瀬の影日向で過ごす

一学生がつなげるアーケードの賑わいと中庭の暮らし

商店街の賑わいと安心して住むことのできる住空間を併せ持つ柳ヶ瀬へ  
柳ヶ瀬の低未利用地を活かした中庭のような住空間  
アーケードの架かる賑わいの商業空間  
それらをつなぐ将来を担う若者たちの学校  
この3つの関係が、柳ヶ瀬に賑わいと安心感が連続する街並みを生み出していく



## 提案 1. まちなか居住による柳ヶ瀬の活性化

### ■整備手法

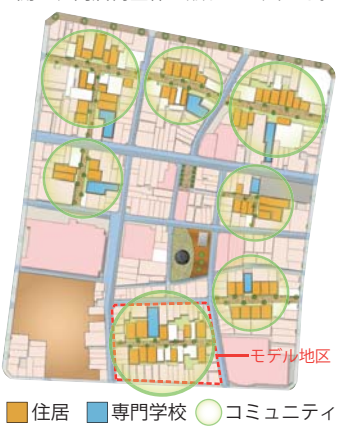
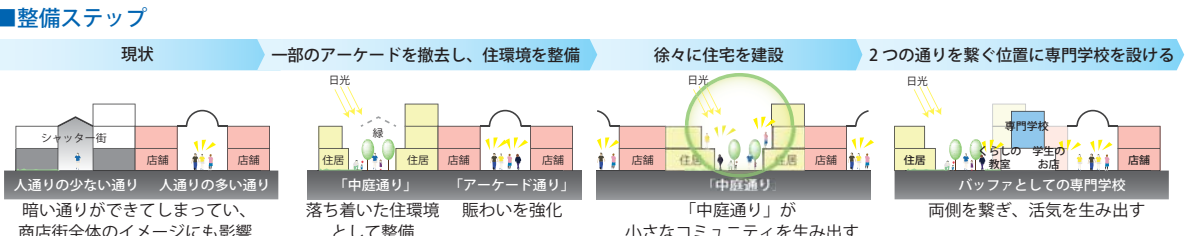
「アーケード通り」「中庭通り」の整備  
歩行者量の分析を基に協議を行い、人通りの少ない通りの中から、アーケードを撤去する通りを選択する。  
アーケードを撤去した通りには、植栽や舗装の整備を行うことで、日の当たる心地よい住環境「中庭通り」を作り出す。  
一方、その他の通りはアーケードの改修や空き店舗を埋めていくことで賑わいの「アーケード通り」を作り出す。

### ■整備ステップ

現状 → 一部のアーケードを撤去し、住環境を整備 → 徐々に住宅を建設 → 2つの通りを繋ぐ位置に専門学校を設ける

### ■柳ヶ瀬全体像

モデル地区を先駆けに、柳ヶ瀬全体に中庭通りの住空間と専門学校を展開し、商店街全体に賑わいが広がる。



## 提案 2. 地域全体の回遊性を向上

### ①ヒストリーベンチの設置による縦軸「時の道」の整備

3街区を貫く縦軸通りにヒストリーベンチを設置することで、柳ヶ瀬の歴史を学ぶ「時の道」として整備する。これにより、3街区を繋ぎ、敷地全体に南北の人の流れを生み出す。



### ②大通りから人を導く横軸「架け橋」の整備

敷地を挟む2つの大通りから人を引込むよう、横軸を「架け橋」として整備する。各「架け橋」の個性化により、駅前「杜」の架け橋を含めた4本の「架け橋」で地区全体の回遊性を向上させる。



### ③柳ヶ瀬の賑わいスポットを繋ぐ周回ルートの整備

敷地の一番奥に位置する柳ヶ瀬に賑わいスポットを繋ぐ周回ルートを整備することで、人が通過するだけでなく、循環し、滞在出来る商店街を目指す。中心部には大規模イベントを開催出来る広場を設け、柳ヶ瀬の空気に囲まれた憩いの公園とする。

